

大分市立津留小学校 学力向上プラン1（8月）

学校教育 目標	共に生き、共に学び、共に汗する 心豊かな津留っ子の育成
育成を目指す 資質・能力	自立:基礎的な学力に基づく自己決定力 共生:対話力 向上:問題発見・解決力

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 【6年】国語では、全ての領域において、全国及び県の数値を上回っている。中でも「話すこと・聞くこと」の数値は、全国や県に比べて特に高い。算数では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」ともに全国の数値を上回っている。 【5年】国語では、全体・知識・活用のいずれも県平均を上回り、目標値を大きく超えている。算数では、全体・知識・活用のいずれも、県平均・目標値を大きく上回っている。理科では、全体・知識・活用のいずれも県平均を上回り、目標値を大きく超えている。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 【国語】「自分の考え」「根拠」「結論」の構成を意識して短い文を書かせたり、定期的に日記を書かせたりして文章を書く機会を増やす。「聞く力」の強みを生かし、ペアやグループでの話し合い活動を積極的に取り入れ、お互いの意見や根拠を比較・共有し、意見をまとめる力を高めることを意識させる。 【算数】既習事項を提示することで、「どの場面でのどの考え方を使ったら良いか」と課題解決の見通しをもたせるようにする。整数・小数・図形等の基本的な仕組みやきまりについて、宿題プリントやぐんぐんタイムなどを活用して反復学習を行い、定着を図る。 【理科】予想・仮説、観察・実験、考察・結論など見通しをもって学習活動に取り組めるよう学習の流れを整理するとともに、話し合い、伝え合う言語活動を積極的に取り入れる。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・1学期末児童アンケートでは、「授業がよく分かる」94%、「ペア・グループトークまたは全体場で、自分の考えを伝えることができた」87%、「友だちと自分の考えを比べながら聞くことができた」89%、「宿題を忘れずにすることができる」96%であった。 ・1学期末教員アンケートでは、「対話による学び合い活動の実施」100%、「こどもの思考の流れが分かる板書」88%であった。	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 こどもたちが、自信をもって自分の考えを述べ、豊かに交流するために、ペアやグループ、一斉など、それぞれの交流の場を意図的、計画的に設定している。板書や思考ツールの効果的な活用、教師がこどもたちの考えの背景、理由を引き出したり、こどもたち同士の考えを繋いだりする役割を果たしていくことが重要であることを確認し、校内研修に取り組んできた。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 「基礎・基本をしっかり身に付けるこどもの育成」、「伝え合い、認め合うこどもの育成」、「自分を磨き続けるこどもの育成」を目指し、学習規律の徹底を図りながら、「生徒指導の3機能」を踏まえた授業改善に組織的に取り組むとともに、朝の活動の時間「ぐんぐんタイム」や給食準備時間の活用など、隙間時間を使った基礎・基本の定着に努めることができた。	

学力に関する達成指標

○単元末テストで60点の未達成率が8%以下 ○「ペアやグループで自分の考えを説明することができた」「友達の意見を聞いて、自分の考えを深めることができた」児童80%以上
--

今後の 具体的 な取組	【授業改善】 〈授業改善のテーマ・重点〉 (授業改善のテーマ) 自分の考えを広げ、深める授業づくり ～多面的・多角的な思考を促す工夫を通して～ (授業改善の重点) ・ねらいに応じた発問やゆさぶり ・効果的な対話の設定 ・板書や思考ツールの工夫	【家庭・地域との協働】
	〈取組内容〉 ・主題やねらいに応じた、問題意識をもたせる発問やゆさぶりを設定する。 ・思考の視点を明確にした対話を設定する。 ・思考を促すための板書や思考ツールを効果的に行う。	〈家庭・地域の取組内容〉 ・「家庭学習の手引き」を活用した家庭学習の徹底
	〈取組指標〉 ・問題意識をもたせる発問やゆさぶりの設定が、児童が自己の考えを広げたり、深めたりすることにつながったか。 ・思考の視点を明確にした対話の設定が、児童が自己の考えを広げたり、深めたりすることにつながったか。 ・効果的な板書や思考ツールが、児童の思考を促すことにつながったか。	〈家庭・地域の取組指標〉 ・毎日宿題をやり遂げたかの確認 ・毎日こどもの音読をきく
	〈検証指標〉 ○単元末テストで60点の未達成率が8%以下 ○「ペアやグループで自分の考えを説明することができた」「友達の意見を聞いて、自分の考えを深めることができた」児童80%以上	〈家庭・地域の検証指標〉 ○「宿題を忘れずにできた」と回答する児童の割合が90%以上 ○「こどもは家庭学習の習慣がついている」と回答する割合が90%以上
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ○各学年部における共通理解事項を組織的な授業改善の視点から、知育部会で検証・改善する。(短期PDCAサイクル) ○互見授業及びレベルアップ講座を開催し、授業力を高め合う。 ○1時間の振り返りを行い、学び残しを明確にした上で授業の補充や個別指導を行い、低学力層の底上げを行う。 ○朝の活動の時間「ぐんぐんタイム」や隙間時間を使い、学習内容の定着を図る。 ○図書室の積極的な利用や、読書タイムの活用を通し、読書活動の推進を図る。	